日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

90.11.19 No. 3311

6万人体制の打破へ向け 進化をとげる営業協議会！

動労千葉営業協議会は、一一月七日第一回拡大代表者会議を開催し、第一七回定期大会で決定された方針の営業への展開（①「九一・三ダイ改」―業務移管をはじめとした動労千葉根絶攻撃との対決②「和解・闘争終結」を許さず、清算事業団闘争の勝利へ向けた闘いの構築③今秋天皇即位儀式―大嘗祭、自衛隊海外派兵などの大政治反動に対して全力で闘う」と、「九一・三ダイ改」をめぐる提案の中身（六万人体制へ向けた大合理化攻撃）について議論した。

また営業職場における労働条件の獲得、営業での組織破壊との対決、そして強制配転者の原職奪還へ向けて、営業に運動を創り出す闘い―地に足をつけ大きく根を広げる労働運動＝組織拡大へ、協議会を営業分科会へと格上げをし、いよいよ真の運動を浸透させていくために、分科会結成へ向けて当面結成準備委員会の中で、検討課題をしぼりこんでいくことを決定した。

現在営業では一〇月一八日提案された、「業務執行体制の見直し」（一二月一日移行）―要員運用の効率化による大変な労働強化と安全切り捨て、弱者切り捨て、地方切り捨てとの闘いが求められている。その内容は…（詳細は交渉ニュースNO・1参照）

(1)出札窓口営業時間の設定……（ア）六：〇〇～二一：〇〇（イ）六：三〇～二〇：〇〇

東京を中心とした「大都市通勤圏」都市圏ゾーンと地方圏ゾーンの区分けによる窓口の時間設定は、そのままキップ発売を一切行わない乗客不在の施策である。（自動券売機で対応できる範囲以外）東京を中心とした地価高騰は、通勤圏をいまや大幅に拡大し、地方分散―拠点通勤の様相をこれから以降さらに予想されるにもかかわらず、フルタイムサービスからの転換―サービス低下となり、駅の無人化＝不毛とも言える地方切り捨てとなっている。

(2)清算窓口の廃止（全駅対象、一部時間設定）

清算窓口の廃止＝清算、払い戻し業務の改札窓口でのラッチ清算は、そのまま窓口でのトラブル、混雑による傷害などの発生を予見させ、大変な業務増となって現場を直撃する問題である。

(3)運転取扱業務の省略（列車扱いの廃止）

「国際鉄道安全会議」前に日暮里駅で発生した転落事故に象徴されるように、安全対策上の観点から言って極めて重要な問題であり、その人的効果は監視カメラなどの機械的効果などと比すべくもない。又、監視カメラを監視する人員がいないなどの合理化による弊害はいまや随所に見られるものである。

今次提案の骨子は以上の三点であるが、これ全て六万人体制へ向けたさきがけとなるものであり、これを支えるJR総連の存在と犯罪性は極めて高いと言える。

さらに恐ろしいのは、現在のJR体制が本来業務よりも小集団・提案・プラス一〇を評価の対象として重きを置いている点にある。

この施策がどれ程労働者の精神を落としめているか、その時その時をうまくやればいいとする考え方の横行と、管理者が見ている場面のみの「良い子」でいること、さらに自らの利得のみに走るおぞましい姿を実際にこの目で見るとき、「JRの構図」とは「腐食の構図」と言わざるを得ない。

我々動労千葉は何度でも警鐘を鳴らす！

鉄道輸送の使命とは何か！人命尊重とは何か！

労働者の精神とは何か！

「大嘗祭」弾劾 ①

「神国日本」の再現狙う

「大嘗祭」は、天皇が「神」になる儀式だ。「神」となってすべての国民を服従させるというトンデモナイ“儀式”なのである。しかも、たった一人の天皇のために、誰の承認も得ずに、国民の血税二二一億円（代替り費用・政府発表）以上が費やされるというのである。怒りなしにはいられない！天皇の名の下には、金は使い放題、自衛隊は国会の承認も得ずに勝手に出動する、警察はやりたい放題の戒厳令、右翼のテロは襲いかかり、はては破防法、これが天皇制の正体だ。暗黒と戦争への道だ。こんなことは許すせない。全力で十二・三へ！抗議のデモを！

もった1人の穂のために

2,21億の税金が

怒りずにいられない！

11/23 正午 宮下公園へ あつまろう！